

申請日： 年 月 日

WGC 大会本部 御中

※できる限りの範囲で記載してください。自由に記載、頁数に拘りません。

〔藤倉賞〕

「環境賞」

申請書

1. 「くらし」をささえる。 2. 「ものづくり」をささえる。 3. 「エネルギー」をささえる。
4. 「いのち」をささえる。 5. 「レジャー」をささえる。

ゼッケンナンバ チーム名										
代表者										
連絡先	〒				－					
	TEL	－				－				
	FAX	－				－				
	E-mail	@								
<u>大会本部記載</u>										
<u>評価など</u>										

(1) 自己のチームの活動が将来どのように役立つと思いますか？

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(2) 自己のチームで今回工夫したもの及びアピールしたいものは？

(3) 自己の車両のエネルギー発電量及び燃費は？

(前に出場していたチームはその比較を書いてください。)

※自由にご記入ください。

(4) 自己のチームの安全対策について記載下さい。

(5) 自己のチームのか活動スポーツや娯楽に展開できる点は？

※

※自由に記載下さい。

(補足)

日本での初めてのソーラーカーレースは、エネルギー消費増と環境保全との相反するテーマに関心が持たれ、電気自動車などのクリーンエネルギー自動車の開発、実用化がより強く求められる中、1992年に電気事業者連合会とエネルギー庁の強力なバックアップにより石川県・能登で実現しました。そして、20年が経過し、猛威を振るってしまった東日本大震災の後、自然の力が主役となり、必要以上の電気エネルギーをつくり出す責任の重さと貴重な電気を使用する尊さを改めて感じさせられます。

本年度の秋田県大潟村での本年度の大会は、26年目を迎えています。

また、ものづくり及び技術者育成の観点から、「環境に関する賞」の設定や特別賞など推進、検討しています。私の活動は豊かさを生み出し、そしてより良い環境へと進歩し続けています。環境に関しての5つのコンテンツから皆様の活動を特別賞として称えます。

一般的にも、「温暖化対策と経済成長の両立には省エネが極めて重要な役割を占める。」と指摘されています。

最初は、特別賞として扱い、その後、「環境」クラスの設定を検討しています。更にグランプリの大会でのポイントにすることも検討中です。

エントラントとオフィシャルが一体となって、健全なる電気自動車の普及・促進を目指し、挑戦を繰り返しているのが秋田県大潟村でのソーラーカーレース(WGC)です。
(文責：熊谷枝折)